



病 気 の お 話 し

TOHOKU CENTRAL HOSPITAL

第 3 回 (2001/06/26)

東北中央病院ホ - ムペ - ジ <http://www.tohoku-ctr-hsp.com/>

《思春期外来雑感》

東北中央病院 産婦人科医員

林 淑子

思春期外来雑感

昭和56年、山形大学産婦人科学教室の広井前教授が、当院に小児・思春期婦人科外来を開設して、20年が経過しました。

ここ数年、十代の性感染症や妊娠が増加しているという印象はありましたが、実際に疾患別の受診頻度を調べてみると、最近5年間は、性感染症と妊娠の割合がぐんと増えていました。また、無月経の割合はほぼ一定なのですが、その中の体重減少性無月経の割合が次第に増加してきたのです。

テレクラ・インターネット、携帯電話など今まで考えられなかった方法や手段による出会いがあり、興味や一時的な感情で性行為に走る若者達。

しっかりと知識や倫理感のないまま、遊び感覚で行動してしまうのです。外来の患者の話では、まるで握手をするような手軽さで性行為にまで進みます。また、同時進行で複数の異性と付き合うことも珍しくありません。そして、短期間で次々と相手が変わっていくのです。もちろん、昔から一部の不良といった若者には、このようなことは見られたでしょう。しかし、現在は、本当に気軽に、罪悪感もなく、いわゆる普通の子に性感染症が浸透しているのです。

夏休み前になると、中学校や高校から、性教育の依頼が増えます。

学校でも、夏休みにハメをはずし、不純異性交遊が増えると認識しておられるの措置でしょう。実際、9月、10月は人工妊娠中絶が増加します。産婦人科医や思春期相談員による性教育は、インパクトがありますし、性格な知識を身につけさせるには良い方法だと思います。しかし、1回で身につくほど、性教育は甘くありません。

一部のマスメディアのよる誤った性情報は繰り返し、そして、大量に若者たちに送られるのです。情報を正しく取捨選択できるようになるまで若者を教育するには、学校での基本的な学習や、家庭での基本的なしつけが根底になければなりません。

基礎的な学習とは何かと言えば、体のしくみや機能などの生理学的なことの他に、人との接し方や、相手の気持ちを思いやることなどの基本的人権の尊重です。そして、家庭における基本的なしつけとは何かと言えば、第一に人の話をよく聞けるようにすること、第2に困ったことや悩みを親に相談できるようにすることです。欲を言えばきりがありませんが、最低この2つができればかなりの問題が解決しますし、これは、しつけと言うより家庭のあり方であって親への戒めなのです。

初めに述べた体重減少性無月経はダイエットをきっかけに発症することが多く、夏やせついでにダイエットし、その達成感にどんどんエスカレートしていくのです。実は、その根底に、様々な悩

みを親にも言えずに押し込めてしまい、自分自身でも気づかずに摂食障害へと進んでいる思春期の姿があります。

山形市は、「男女共同参画のまち山形」の実現を目的として、「いきいき山形男女共同参画プラン」を策定しました。その中にも人権尊重の基礎となる性教育の充実や、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについての意識の浸透などが目標として挙げられています。

これからの時代を担う若者たちが、性感染症や予期せぬ妊娠、摂食障害に脅やかされないように、また万一問題が生じても素早い対処し繰り返さぬよう、何でも話せる家庭を築いて欲しいと思います。これは、思春期の子供を持つ親（私も含めて）だけでなく、これから子供を作ろうとするカップルへの願いなのです。